VOICE!VOICE!VOICE!

西田裕之監督

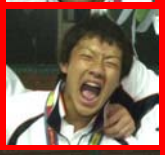
昨日のミーティングで締めに「正直決勝まで来れるとは思ってなった」と言ったら選手たちに「え～監督！」って言われましたけど（笑）、大会前は本当にチームがまとまらなくて大丈夫かなと思っていました。しかし、オランダ合宿から選手たちが変わって試合をするごとに良くなっていった。この大会を通過点として今後のサッカー人生に役立てて欲しいと思います。

岩政大樹主将（東京学芸大学）

本当は２－１で終わらせたかったんですけど優勝したんでいうことはありません。今大会はチームの雰囲気がとても良くて試合にしても宿舎の生活にしてもチーム全体で楽しめた。僕自身にとっては今までで一番印象深い大会になりました。ただ、世界を相手にすることで課題もたくさん見つかりました。これを糧にまた大学に帰ってレベルアップに励みたいと思います。

田中信成（駒澤大学）

試合に出てないけど感動しました。駒大でまた頑張りたいと思います。本当にユニバはいい経験になりましたね。しかも、すごく楽しかった。ユニバ最高ー！！！



原　一樹（駒澤大学）

また金獲っちゃいました（笑）。本当に獲っちゃいましたよ。国際大会だし、デカイ大会だったんで獲れたのはすごくうれしい。（この勢いで残りのタイトルも？）もうこうなったら獲ります。天皇杯だってとってやります。

中田洋介（駒澤大学）

ケガのほうがひどくて最後は出れませんでしたけどみんなの力で優勝が出来ました。日韓戦のときは本当に優勝できるのかなってのがあったんですけどこのチームは本当に一戦一戦成長していった。早くケガをなおしてリーグ戦で全力を尽くして今度は駒大を優勝に導きたいと思いますないかなと思います。」

堀　健人（順天堂大学）

優勝は率直に嬉しいです！大学に入ってから優勝とか経験してなかったんで優勝できて…、代表に選ばれたことだけでも嬉しかったのに最高です。今大会点を取れたのはたまたまです（笑）。点を取れたことはうれしいですけどまだまだ課題がたくさんある。とりあえず、チームに帰ったらチームがリーグ戦で残留争いをしているんでチームを一部に残して、インカレでいい成績を残したいです。自分自身としてはＪを目指して頑張りたいです。

苦しい戦いをものにしてきただけに優勝が決まった瞬間は歓喜が爆発した

［上］中後が決勝ゴールを決めると周りに歓喜の輪が
［右］逆転ゴールを叩き込んだ堀。今大会は勝負強さが光った

［下］岩政（右）の同点ヘッド。先制を許した後、すぐさま同点に追いついたのはおおきかった

8月30日　19:00　テグ市民運動場

日本3（1－1 / 2－1）2イタリア

得点者(アシスト)

【イ】16分:セルチア（ムナリ）
【日】22分:岩政大樹（中後雅喜）
【日】48分:堀健人（前田雅文）
【イ】62分:ニコラ
【日】89分:中後雅喜

ＪＡＰＡＮ	ＩＴＡＬＹ
GK①塩田仁史(4)	GK①ファラット
DF②村山祐介(4)	DF②ボジ
DF⑬江添健太郎(3)	DF③ジェンティリーニ
DF⑤岩政大樹(4)	(53分③カルネサリ)
DF④戸川健太(4)	DF⑦ティナッジ
MF⑦中後雅喜(3)	(73分⑬ジュンダ)
MF⑥保坂一成(3)	DF⑧ビンセンティ
MF⑪堀　健人(3)	(83分⑩ファベロ)
MF⑯前田雅文(3)	MF⑨セルチア
FW⑩山崎雅人(4)	(53分⑯スチアーボン)
(77分⑲原　一樹(1))	MF⑪ガルビアティ
FW⑨田代有三(4)	MF⑭ロンザル
	MF⑮ムナリ
ＭＡＮＡＧＥＲ	FW⑰ニコラ
西田裕之	FW⑲タリビオ

警告(C)／退場(S)

【日】52分:村山祐介(C)

[シュート]7:15[枠内シュート]5:7[決定機]4:6
[CK]5:4[PK]0:0 [OS]0:4[ファール]19：13
[主審]リー・ジョング[観衆]約3000人

※上記データは全て左側の数字が日本。枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です。

［右］先制ゴールはまさに衝撃だった。４０メートルはあろうかというシュートをイタリアは決めてきた

エンスで日本ゴールを死守する。そして耐えに耐えた日本にロスタイムＣＫのチャンスが。残された時間はあとわずか。**堀**がＣＫを急ぐ。堀がＣＫを蹴るとそのＣＫのクリアボールは**中後**の足もとに。それを**中後**がダイレクトでシュート。「実際、はいるとは思わなかった」（**中後**）というシュートはキーパーの脇をすり抜けゴールイン。土壇場で逆転に成功した日本。ベンチに駆け寄った中後のまわりには歓喜の輪が。そして**塩田**がイタリアの最後の攻撃を防ぐと、終了のホイッスルがテグ市民運動場に響く。一戦一戦、そのチーム力をアップさせた日本が大会２連覇という偉業を成し遂げた。

今大会、苦しい試合を幾度ものにし成長してきた日本代表。「苦しい試合を勝ち抜いて優勝できただけに充実感があります」という**岩政**の言葉がそれを物語る。しかし、西田**監督**は「彼らにとってこれは通過点。これからにこの経験を活かして欲しいと思う」と語った。この後、彼らはチームに戻り各大学リーグでしのぎを削る。大学サッカーの知名度はまだまだ上がってきたとはいい難いがこの大会を見た限りではこれからの大学サッカーに飛躍の予感が漂う。

「優勝してこのチームは今日で最後。だが彼らはまだまだ伸びるでしょう」、**西田監督**は最後にこう言った。その言葉はどこかこの時点のチーム解散を惜しむかのように聞こえた。**中後**も「もっとやればもっと強くなった」とこのチームの解散を惜しんだ。それほどこのチーム、選手たちは成長段階であるということ。今後の彼らの活躍から目が離